

芳年の絵「ダイナミック」

朝陽小児童 企画展で知識深め



弘 前

弘前市の朝陽小学校（齋藤昭校長）6年生児童が21日、弘前市立博物館で開催中の特別企画展「YOSHITOSHI「鬼才」の浮世絵師・月岡芳年」を見学し、月岡が描き出した絵柄の時代背景や技法などについて

知識を深めた。

月岡は江戸で生まれ、12歳で武者絵の能手・歌川国芳に師事。幕末から明治期にかけ、血みどろ絵や武者絵、美人画など多彩な題材を描き、ねぶた絵にも大きな影響を与えたとされる。総合学習の時間に同博物館を訪れた児童ら約30

月岡芳年の浮世絵について北上学芸員の説明を熱心に聞く朝陽小児童ら

人は、北上真生学芸員の説明を聞きながら要点をメモ。刺激の強い作品は避けつつ、師匠の絵柄を模倣していた修業開始当初と、独自性を発揮し始めた後年の絵柄や、西洋からもたらされた遠近法を使った構図、芸術ばかりでなく、史実の速報などメディアの役割も果たしていたこと、静と動や古い時代と新しい時代の対比、思い切った縦長の絵柄など、大胆な構図で描いていることなどを学んだ。

北上学芸員の質問に積極的に対応していた奈良岡彦太郎君は「構図がダイナミック。ねぶた絵に絵柄が似ていると感じた」などと話した。

（珍田秀樹）

東奥日報社 令和3年6月24日掲載

この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです